

第49回 在宅ケアネット渋川 講演会レポート

〔日時〕11月14日(水) PM19:00～PM20:30 〔会場〕プレヴェール渋川(旧アネーリ渋川)

(演題) 「地域で支える認知症」～認知症カフェの位置づけ～

(講師) 藤田医科大学医学部 認知症・高齢診療科 教授 **武地** たけち はじめ 先生



職 種	人数(人)
医師、歯科医師、薬剤師	25
看護師・保健師	63
介護職	36
PT/OT/ST	18
ソーシャルワーカー	13
ケアマネジャー	10
栄養士	4
歯科衛生士	2
事務(行政含む)	12
その他・未記入	7
合計	190



『認知症カフェ』の取り組みは渋川地区でも注目されておりますが、まだ実際に開設している所は少なく、これから設置を考えている方や「認知症カフェってどんなところ？」という方の参加も多くみられました。武地先生はオランダで始まったアルツハイマーカフェを2012年に取り入れ、実際に担当医師として関わってこられました。そのノウハウや課題を教えていただいたことは今後、大いに役立つのではないかと思います。「認知症は自分事」誰にでもなる可能性があります。不安な時に一人だけ、家族だけで抱え込まないで、地域で支え合う関係やカフェのような場所が身近にあると安心ですね。

〔参加者の感想(一部抜粋)〕

- ☆認知症カフェがどのような場所か理解できた。
- ★認知症になっても気楽に行ける場所は必要である。
- ☆運営(人材、場所、経費、集客など)が大変そう。課題がわかった。交通手段が少ない。
- ★認知症予防の人と認知症の人が同じ場所で関係を持たせることの難しさが学べた。(高齢者の居場所づくりとは異なる)

- ☆専門職と市民の協力が必要だと思う。
- ★認知症予防として取り上げることが偏見につながっているということを改めて認識した。
- ☆認知症が特別ではないという考えが広がると良い。
- ★地域で支えていく大切さを学べた。
- ☆誰でも集まれる場所ではなく認知症の方、家族が集まることのできる場所にすることが大切なことがわかった。